



豊かな感性と自主性から文化芸術の活性化を

# 学校アートプログラム

(文化芸術による次世代育成事業)

2021年度から始まった関西・大阪21世紀協会の「学校アートプログラム」。アーティストを学校に派遣して、継続的な体験授業を行う取り組みだ。仲間とともに創造する体験が、子どもたちの人間力や思考力などを育むきっかけとなることを期待している。

コミュニケーションを図り  
友だちや自分の新たな  
一面を見つける



どうすれば思いを  
表現できるかな?



これはなんだろう?  
疑問や興味をもつ



## 関西・大阪21世紀協会の新しい試み

このプログラムの目的は、アーティストに活動の場を提供するだけでなく、鑑賞者や体験者を増やして芸術のすそ野を広げていくことにある。特に次代の文化芸術の担い手となる子どもたちに焦点をあて、心身の成長が著しい小学4～6年生を対象とし、アートを身近に感じてもらえるようプログラムを展開する。

派遣授業は、同じ子どもたちに年間3回以上行うものとし、

作品鑑賞・体験と複数回にわたってアーティストと触れ合う機会をつくりだす。

授業の中で子どもたちはアーティストの「ものの見方」「感性」「考え方」に触れることになる。このような鑑賞を含めた芸術体験が「思いを言葉や形にする力」「他者を認め、協働する力」「主体的に考え、行動する力」「思考する力」などの向上を促し、豊かな感性と自主性をもつ人材へつなげるものと考えている。

## 複数年の継続実施

こうした取り組みは、国(文部科学省、文化庁)の施策としても行われているが、効果をはかるには長期的な取り組みが必要となることから「学校アートプログラム」では3年間継続して実施するモデル校を設定している。

また、プログラムが子どもに対して、どのように作用しているのか評価をするために、教育、行政、美術館教育普及に携わる専門家からなる「評価委員」を選出している。実際に授業を見て「子どもたちどのように影響を及ぼしたのか」「効果があるのか」ということだけでなく、授業の進め方や各プログラムの内容な

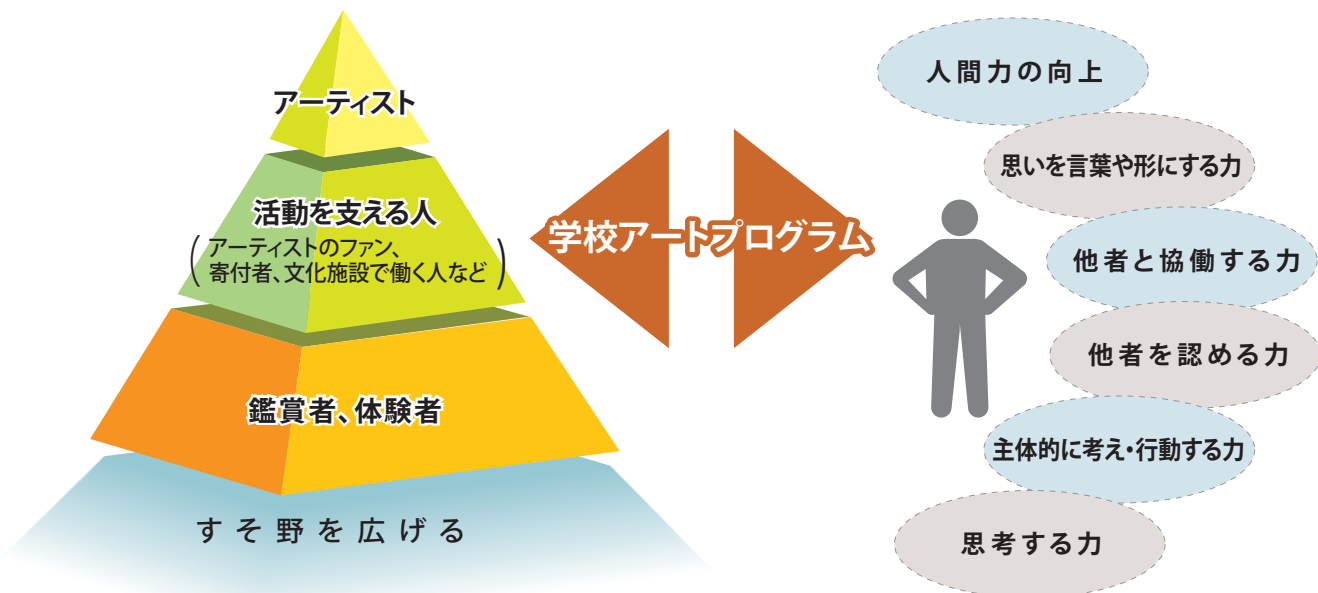
ど全体を通して評価を行い、次年度に向けて更にブラッシュアップさせていく予定だ。

このプログラムにより、子どもたちが豊かな感性をもつ大人へと成長し、ますます複雑化する社会を生き抜く力を養うことを期待している。

実施校	実施内容	派遣アーティスト
泉南市立新家小学校 <small>しんげ</small>	映画作り(タブレット使用)	前田 耕平
泉南市立東小学校 <small>ひがし</small>	インドネシアの音楽と影絵体験	Hanajoss(ハナジョス)
阪南市立下荘小学校 <small>しもしよう</small>	教室に潜む形を使ったスタンドガラス模様作り	野原 万里絵
岬町立深日小学校 <small>ふけ</small>	水平線から生まれるアニメーション作り(タブレット使用)	林 勇氣

### 関西・大阪の文化芸術の活性化

### 豊かな感性と自主性をもつ人材へ



### 2021年度の派遣アーティスト



前田 耕平氏

1991年和歌山県生まれ。大阪を拠点に活動。人や自然、物事との関係や距離に興味を向け、様々なアプローチで探求の旅を続けている。自身の行為と体験を手がかりに、国内外で映像やパフォーマンスなどの作品発表を行う。個展のほか、紀南アートウィーク2021などに参加。



Hanajoss

2002年にジャワ島ジョグジャカルタで結成されたジャワ芸能ユニット。ジャワの伝統音楽ガムランと影絵芝居ワンの上演、ワークショップ、作曲、演奏指導、アーティストや子どもたちとのコラボレーションを中心に、2005年より大阪を拠点に活動している。



野原 万里絵氏

2013年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)修了。絵画を描く際の感覚的かつ曖昧な制作過程に関心をもち、自ら制作した定規や型紙などの道具を用いた絵画作品を発表。他者とのコミュニケーションを通して、絵画の新たな可能性を模索している。



林 勇氣氏

関西を拠点に活動する映像作家。身近な風景やものを写真で撮影し、切り取った断片をつなぎ合わせて再構成・映像化した作品を国内外の美術展や映画祭で発表。主な個展に2016年「電源を切ると何もみえなくなる事」(京都芸術センター)、主な作品収蔵に徳島県立近代美術館など。

# 子どもたちは何を学び、どう変わったのか ——

「学校アートプログラム」を通して、子どもたちは何を学び、どのように変化したのか。また、現場の教師の方々はどのように感じ、今後どのような展開を期待されているのか。モデル校(3年継続)として実施された新家小学校と東小学校の両校長に、今年2月、当協会崎元利樹理事長がオンラインで伺った。



泉南市立新家小学校 校長  
こつぎ じゅんいち  
木次潤一氏



泉南市立東小学校 校長  
うえだ ひさかず  
上田久和氏



関西・大阪21世紀協会 理事長  
さきもと としき  
崎元利樹

## 普段とは異なる姿

**崎元** この度は当協会の「学校アートプログラム」にご参加いただき、ありがとうございます。当協会はアーティストの支援などを通して文化による関西・大阪の活性化を目指していますが、そのためには次代を担う子どもたちの可能性を伸ばすお手伝いもするべきだと考え、2021年度から本事業に取り組んでいます。そのモデル校として実施された両校の校長先生は、子どもたちや担任の先生のような様子をご覧になって、どのような印象をもたれましたか。

**木次** 新家小学校では4年生の32名がプログラムを受けました。本校の4年生はこの1クラスだけで、これを5～6名の小グループに分け、子どもたちはアーティストたちと一緒に撮影の仕方や演技方、編集の仕方などを考え、協力して制作を進めました。その中で、いつもおとなしい子が率先して話し合いの中心になっていたり、進んで役割を引き受けたり、普段の授業では見られない姿が多く見られました。人前で演技をするとは思えない恥ずかしがりの子でも、みんなの頑張りをみて挑戦しようとしているし、それを和気あいあいと楽しんでいるように、子どもの自主性や協調性が表れて嬉しく思いました。

また、子どもたちはやっているうちにタブレット端末や編集ソフトの扱いに慣れ、どんどん上達していきました。そして、これで

満足し切るのではなく、「もっとやれたら良いものができたのに」という思いを残しつつプログラムを終えたことが、今後の意欲や向上心につながって良かったと思っています。実施後のアンケートには「映画を撮ってみたいになった」「自分たちの作品が完成してよかった」という感想が多く、良い経験をさせてもらったと評価しています。

**上田** 東小学校では、4年生の13名がインドネシアの伝統的な音楽と影絵作りに挑戦しました。最初、子どもたちも担任教師も、それがどんなものか分かりませんでした。そのため非常に興味深く、楽器や影絵に初めて触れた子どもたちには新鮮な驚きがありました。自分たちにできるのかという不安もありましたが、最終的にはセリフや細かい表現を自分たちで考え、全校児童を前にした上演にこぎつけました。

子どもたちは、励ましあったり、教えあったりして取り組みました。そうして完成し、発表会で歓声や拍手を受けたことで成功体験を得たし、自尊心も高まったように思います。終了後のアンケートには、「友だちのこんな良いところを見つけた」とか、「またやりたい」という前向きな気持ちが書かれていました。

また、インドネシアという国について学び、同国の人と接して国際理解にもつながったし、その知識を他の児童にも教えてあげるなどして、本校が目標とする「4つの力」(人を大切にす

## 泉南市実施小学校概要(ホームページより)

### 泉南市立新家小学校

創 立 1874年2月7日  
児 童 数 212名  
教職員数 20名  
教育目標 『強く 正しく 伸びゆく子』



「安心、自信、笑顔でつながる学校」をスローガンに、子どもが自分の活動に自信をもてるよう、失敗を恐れずトライできる指導に取り組む。

### 泉南市立東小学校

創 立 1872年8月5日  
児 童 数 94名  
教職員数 15名  
教育目標 『みんながわくわく 学び合える学校』



「健康・成長・無事故・仲良し」をキーワードに、「人を大切にする力、自分の考えを持つ力、自分を表現する力、チャレンジする力」の4つの力をつける教育に取り組む。



タブレットでシーンを撮影(新家小学校)

る力、自分の考えを持つ力、自分を表現する力、チャレンジする力)を育むきっかけになったと思います。他の学年の児童も楽器や影絵に興味をもち、上演を観てわくわくした気持ちをもったと思います。

**崎元** 私も東小学校でプログラムのようすを拝見しました。その際、担任の先生から、他の学年の児童もやりたがっていると聞いて嬉しく思いました。また、子どもたちがイキイキと取り組んでいる姿を見て、決められた答えではなく、自分なりの答えを導き出す機会を提供したことで、子どもたちの前向きな心のスイッチを押すことができたように思いました。両校とも担任以外の先生方にも色々とお手伝いいただきました。プログラムを通して先生方にも新たな気づきを得ていただけたならば、子どもたちにも良い影響を及ぼすのではと期待しています。

さて、両校にはモデル校として、引き続き2年間同じクラスで、また別のプログラムを受けてもらいます。今後の取り組みに対するご意見などをお聞かせください。

## 繰り返しチャレンジする大切さ

**木次** プログラム(映画作り)で習得したことを活かせば、子どもたち自身で「手洗いムービー」や「学校紹介ムービー」とい



楽器(ガムラン)で作曲(東小学校)

た啓発・広報ムービーを作り発信することもできます。それを続けていくことで、プログラムを受けた4年生が6年生になったときには、自分たちで自分たちのことをプロデュースする力が身につくのではないのでしょうか。そのためにも単発で終わるのではなく、継続してプログラムを実施することが大事だと思います。体験回数が増えれば心に残ることも増えますし、失敗を恐れずリトライできる土壌を学校に作るためにも、子どもたちには繰り返しチャレンジする大切さを学ばせたい。今後も継続していただきたいと思います。

**上田** おっしゃるとおりですね。本校でも継続して取り組むことで、子どもたちが高学年になるにしたがって自分を表現する力をつけることを願っています。そして身につけた表現力や発信力をもって、今度は自分たちが下級生に教えたり、他の学年の児童の目標になったりすれば、全校的な広がりになっていくでしょう。そうすることで、自分たちの学校は自分たちで作っているんだという意識を持ってくれることを望んでいます。また、自分の考えを表現する力がつく自尊感情を高めることにもつながりますので、来年度もまた何かに挑戦させてやりたいと思っています。



## 泉南市の教育の取組と学校アートプログラムについて

泉南市教育委員会 教育長 富森 ゆみ子 氏

令和3年度から、泉南市では公益財団法人 関西・大阪21世紀協会様と協定を結び、「文化芸術による次世代育成事業」を行っており、本市の子どもたちの育成に対し、御理解・御協力賜り心より感謝申し上げます。

本市は目指す子ども像として「希望と力をもちたくましく生き抜く子ども」を掲げております。子どもの言語能力の確実な育成、情報活用能力の育成、子どもが自ら主体的に学ぶ力の育成を目指しております。また、豊かな人間性と社会性を育むための規範意識や自他を尊重する心を育てる人権教育や道德教育にも力を入れております。

本事業では、まさに本市が求めている教育が実現されております。子どもたちが、本物の芸術家に出会い、芸術に触れる体験を通して、芸術に興味をもち、多様な価値観を学びながら豊かな人間性を育むものとなっております。

また、芸術作品を完成させるという目標のもと、子どもたちがアイデアを出し合い、対話によって創り上げるという学習を通して、言語活動の充実や学びに向かう力も向上していくものと期待しております。さらには、タブレットを使用し、ビデオの編集や音楽ソフトを活用するなど、ICT教育の充実が図られるなど、これからの学びに大いに役立つものと認識しております。

今後も、本事業を通して、泉南市とタイアップした取組に加え、本市で任用しているJETプログラムのメンバーも参画し、国際交流などの取組を通じて、泉南市の子どもたちの感性がより一層磨かれていくことを期待しております。



泉南市・泉南市教育委員会と連携協定を締結



効果音なども入れて編集(新家小学校)



影絵人形(ワヤンクリ)を使って練習(東小学校)

## アートで子どもの可能性を広げる

**木次** 今はリモートでどんなところともつながれますから、お互いの学校の成果をリアルタイムで見せ合うこともできます。本校と東小学校だけでなく、市域を越えて、もっと遠くの小学校とつながることもできます。そうすることで、子どもたちの成果がもっと有益な形として残るのではないのでしょうか。

**上田** 小規模校では、子どもたちが大勢の前で発表できないという難点がありますから、いろんなところと交流できれば、子どもたちの視野を広げることにつながります。ましてコロナ禍にあっては子どもたちも閉じこもりがちになり、ストレスが溜まっています。リモートでも発信・交流できれば、子どもたちを元気づけることになるでしょう。

**木次** 例えば東小学校の4年生が作った影絵を、国を越えて

インドネシアの小学生に見てもらうこともできますね。そして子どもたち自身が英語でイントロデュースすれば、英会話の実地体験になるし、国際交流の機会にもなる。アートを入口として始めたプログラムですが、出口はすごく広く、まさにグローバルです。そうしていろんな可能性を伸ばすことで、学校としても成長していけると思います。

**崎元** 「学校アートプログラム」は、アーティストとの共同作業によって、芸術面に限らず子どもたちのさまざまな可能性を育むことを目的としています。その意味で、出口がどのように広がっていくのか非常に楽しみです。2年目以降についても先生方と相談しながら、子どもたちの心に残るプログラムを進めてまいります。この度はどうもありがとうございました。

### 参加児童のコメント (アンケートより抜粋)

#### 泉南市立新家小学校4年生(映画作り)

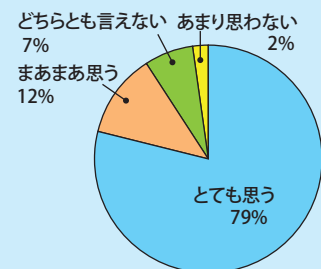
- どういう表現をしようか全員で考えて語り合っ、いい表現を出そうとしました。(映画)を作るすごい人になれるように努力して、がんばろうと思いました。それで一番思っているのが、あと何十回もやりたいことです。
- 最初は「ちゃんとできるかな?」と心配していたけど、やってみるととてもわくわくしてきました。最後の上映会は、ちょっとはずかしかったけど、みんなで協力して作った映画は、とてもおもしろかったです。
- 自分でもみんなと新しい映画を作れるんだなあ～と思いました。

#### 泉南市立東小学校4年生(インドネシアの音楽と影絵体験)

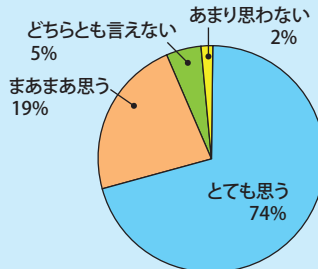
- 本番のとき、何か間違えても見てくれた人たちがずっと拍手してくれました。いろいろな人達にかこまれるとあたたかい気持ちになりました。
- 難しかったらすぐに教えてくれるから、本番も成功できた。成功できたらほめてくれるし、間違えても大丈夫と言ってくれたり、やさしくしてくれたりしてありがとう。
- 今回の発表で、今まで以上の広い世界を見ることができて、今後の活動につながると思いました。

#### 新家小学校、東小学校でのアンケート結果(抜粋)

みんなが表現するのを見たり、聞いたりするの楽しかった...91%



みんなと力を合わせて取り組むことができて楽しかった...93%



またやってみたいと思った...95%

